

| | |
|---------------|--|
| 氏名 | 池 田 滋 樹 |
| 学 位 の 種 類 | 医 学 博 士 |
| 学 位 授 与 番 号 | 乙 第 1826 号 |
| 学 位 授 与 の 日 付 | 昭和62年 9 月30日 |
| 学 位 授 与 の 要 件 | 博士の学位論文提出者（学位規則第 5 条第 2 項該当） |
| 学 位 論 文 題 目 | ラット腹腔肥満細胞からのアナフィラキシー性 histamine遊離に対する disodium cromoglycate, 6, 7-dihydro-6, 8, 8, 10-tetramethyl-8H-pyrano-[3,2-G] chromon-2-carboxylic acid (EAA) および tranilast の抑制効果 — 細胞外Ca ²⁺ の影響および交叉タキフィラキシーの成立 — |
| 論 文 審 査 委 員 | 教授 産賀敏彦 教授 栗井通泰 教授 木村郁郎 |

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

Disodium cromoglycate (DSCG), EAA および tranilast のヒスタミン遊離抑制作用を, ラット腹腔肥満細胞からのアナフィラキシー性ヒスタミン遊離の実験系を用いて, 細胞外Ca²⁺イオンとの関係およびタキフィラキシー発現の面から追求した。その結果次のような成績を得た。(1) 媒液中のCa²⁺存在下ではEAA, DSCG および tranilast はいずれも濃度依存的にヒスタミン遊離を抑制した。(2) 媒液中のCa²⁺非存在下ではDSCGのヒスタミン遊離抑制効果のみが著明に減弱した。(3) EAA, DSCG および tranilast にはタキフィラキシーが発現し, この三者間に交叉タキフィラキシーが成立した。以上の成績からEAA, DSCG および tranilast は, ヒスタミン遊離抑制効果の細胞外Ca²⁺要求性には相違があるが, 肥満細胞の同一部位に結合して作用を表わすものと考えられる。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は抗アレルギー薬物の作用機序に関する研究であるが, 肥満細胞からのヒスタミン遊離に対する抑制作用におけるカルシウムイオン要求性およびタキフィラキシー成立に関して, 重要な知見を得た価値ある業績であると認める。

よって, 本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。